



「探究モードにスイッチ オン!」



「探究的な学び」研修、小学校・中学校「未来市民教育」研修

「探究学習は何から始めたらいいの?」「課題の設定は、どのようなことを子どもたちが考えていけばいいの?」と様々な疑問に向き合った、今年度新設した研修です。学校園内での授業研究・改善を推進する立場にある先生方を対象に、大阪教育大学 特任准教授である 四辻 伸吾先生をお招きして「学びの必然性をもった子ども主体の学習について～夢 TRY 科を通して～」と題し、ご講義いただきました。前半は、体育館で講義・演習。後半は、教育センター大研修室・小研修室・PC ルームと3部屋に分かれ、一人一台端末でクラウドの活用をし、探究学習の肝ともいえる『「課題の設定」をどう行うか』について中学校区ブロックごとに対話を通して演習を行いました。探究学習は学習者自身が主体的に問いを立て、自分なりの納得解や最適解を見つけていくプロセスを重視する学習方法です。子どもたちが教わる授業から、自ら学びとる授業へと教師の授業観の転換が求められています。ぜひ各学校園で探究モードにスイッチオン!

「受講者の感想より」

◎課題設定の難しさを感じている中、探究型の学習の進め方について具体的な例も提示していただきながらたくさんのヒントを頂きました。個人的に探究のスイッチを押すという言葉が印象に残りました。

◎探究は課題意識をどう持たせ、自身の見解を表現させていくことが大切だと思うのですが、1周のサイクルで終わらずに次のループに行くためによりよいサイクルをどう作っていかばいいかがまだ見えない部分もあり、少々のモヤモヤは残っているところです。

◎四辻先生の「なぜわざわざ探究的な学びをしなければならないのか」を探究的に考えられたと思います。今日の講義の流れこそが、新しい夢 TRY 科の流れなのかと思いました。教師の「伝えたい」、生徒の「聞きたい」がマッチしないと、授業は活性化しない。主観的価値をいかに生徒が課題に対して持つのか、学びの必然性をどう感じさせるのか、少し見えてきた気がします。講義メモがとまりませんでした。私の「興味価値」「獲得価値」「利用価値」に今日の研修はすべてにはまっていたようです。



派遣相談が始まりました

相談員派遣事業

今年度も市立幼稚園・こども園・小学校を対象に、年間10回相談員を派遣します。本事業をより効果的にご活用いただくために、「相談員派遣事業について(pdf)」を学校園間フォルダに所収しております。

詳しい内容や活用方法などを紹介していますので、ぜひご活用ください。

主な活動内容

- ・園児・児童の行動観察
- ・教職員との協議
- ・園児・児童、保護者との面接

「相談員派遣事業について(pdf)」所収場所

【校務用PC】学校園間 → 06_教職員 → _0000 教育センター【令和6年度】 → 相談支援

昨年度実施した「令和5年度相談員派遣事業にかかるアンケート」では、98%の学校園から「効果がある・概ね効果がある」と回答をいただきました。アンケートの内容を一部紹介します。

「アンケートより」

◎相談員の見立てを聞いたり話したりしながら教職員自身の考えを整理することで、一人ひとりの子どもの支援につながっていると感じた。

◎子育てに悩んだり、子どもの成長に不安を感じられていた保護者が、継続して相談されるなかで、広い視野で子どもの成長を見守れるようになった。